

今後の行事予定 event schedule



6月7日(土)
健康と食のまつり

昨年の会場の様子

担当医表 charge medicine table

		月	火	水	木	金	土
第1診察室	午前		江頭			江頭	
	午後						
第2診察室	午前	津出	吉田	山浦	師岡	吉田	担当医
	午後	師岡	本田	高野	高野 金場	津出	
第3診察室	午前	馬場	馬場	馬場	馬場	馬場	
	午後			和田山			
鍼灸治療室	午前	長尾			長尾		
	午後		長尾		長尾		
歯科室1	午前	田川	田川	田川	田川	田川	田川
	午後	田川	田川	田川	田川	田川	

- 総合医療センターについては御幸病院総合受付でお尋ねください
- 王研究員の漢方相談…毎週水曜日の午前・午後 毎週木曜日の午後(15:45~)
- ★ 第1, 3, 5 (木) 午後: 高野 2, 4 (木) 午後: 金場

長尾名誉院長 外科(鍼灸漢方)・健康相談を担当します。

馬場総院長
吉田院長
津出診療部長
川野リハビリテーション部長
本田消化器・内科医長 内科を中心として、種々の診療を担当します。
高野内科医長
山浦医師
金場リハビリテーション医長
師岡循環器・内科医長

磯貝緩和ケア診療部長 緩和ケア病棟を担当します。
緒方緩和ケア診療部・内科医長

江頭医師 呼吸器・アレルギー疾患・心療内科を担当します。
和田山医師 整形外科を担当します。
田川歯科医師 歯科を担当します。予約が必要です。

- リハビリテーションの担当医: 川野、吉田、津出
- 緩和ケア入院相談 月~土 8:30~17:30 (随時)
相談窓口: 地域医療連携センター

ニュース news

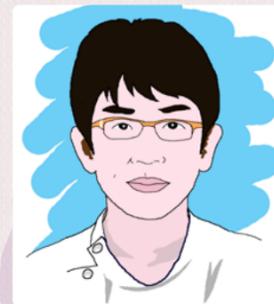
新任医師のご紹介

御幸病院に、1月1日付で師岡公彦医師が、4月1日付で緒方賢一郎医師が着任いたしました。師岡医師の専門は循環器で、外来や心大血管リハビリテーション等を担当いたします。緒方医師の専門は緩和医療で、主に緩和ケア病棟での勤務となります。御幸病院の新しいスタッフを、どうかよろしくお願いたします。



循環器・内科医長
師岡 公彦

「高血圧症、糖尿病、脂質異常症などから、虚血性心疾患や心不全、不整脈などの循環器領域を診療しています。リハビリ分野では、虚血性心疾患、心不全、心臓・大血管術後などの機能回復に向けた、心大血管疾患リハビリテーションを手掛けていきます。」



緩和ケア診療部・内科医長
緒方 賢一郎

「患者さんやご家族のつらさや苦しみを軽減することで、これまでと同じような生活が送れるように援助させていただきます。」

みゆきの里通信

人が人をおもう。人が人をつつむ。



Vol. 24

2014 spring / 御幸病院広報誌



『全人的医療に取り組む
総合医療センター』

患者さま一人ひとりと向き合い、健康のお手伝いを



～医療の輪で、健康と命の尊厳を支えます～

医療法人博光会 御幸病院

【診療科目】
内科・消化器内科・循環器内科・呼吸器内科・漢方内科・リハビリテーション科・心療内科・アレルギー疾患内科・小児科・歯科・麻酔科(ペインクリニック)
【医師: 岡崎止雄】

【診療受付時間】
平日 午前8時30分～午後5時
土曜 午前8時30分～午後12時
※但し急患は何時でも受け付けます。

詳しくはホームページをご覧ください <http://www.miyukinosato.or.jp/>

【施設概要】
● 緩和ケア病棟: 20床
● 一般病棟: 30床(うち亜急性期病床4床)
● 回復期リハビリテーション病棟: 85床
● 医療療養型病床: 51床
● 併設: 訪問看護ステーション「みゆきの里」

発行/医療法人博光会 御幸病院
〒861-4172 熊本市南区御幸館田6-7-40
TEL:096-378-1166 FAX:096-378-1762
メールアドレス info@miyukinosato.or.jp
ホームページ <http://www.miyukinosato.or.jp/>

みゆきの里グループ

- 軽費老人ホーム 富貴苑
- 特別養護老人ホーム みゆき園
- 地域密着型特養 みゆき東館
- 介護老人保健施設 ぼたん園
- ケアハウス ビオニーガーデン
- ウェルネススクエア和楽
- 小規模多機能ハウス ほがらか
- グループホーム ほがらか
- サービス付き高齢者向け住宅 サンシティハウス
- レストラン ビオサルテ
- ケアガイドセンター 駕町
- 熊本市高齢者支援センター ささえりあ平成



みゆきの里 会長
医療法人博光会 理事長
富島 三貴

みゆきの里通信24号をお届けします。
当御幸病院では、東洋伝統医学を始めとした代替医療と、西洋現代医学を統合する統合医療の実践に取り組んでまいりました。長尾和治名誉院長による外来での鍼灸・漢方診療をスタートし、平成19年1月には病院外来にて鍼灸診療治療室を開設いたしました。そして昨年、鍼灸診療治療室を中心として「御幸病院統合医療センター」を設立、長尾名誉院長をセンター長として活動を拡大しました。10年の歳月を経て現在は医師・看護師・鍼灸師など多職種が協力し、鍼灸・漢方を始めとして点滴療法やアロマセラピーの研究・実践を行っています。高齢期・慢性期疾患でお悩みの方々に喜んで頂いております。

また、みゆきの里の新しい施設として、御幸病院から徒歩3分ほどの近隣に「サービス付き高齢者向け住宅 サンシティハウス」を今年4月に開設いたしました。みゆきの里各施設との連携により、医療や介護といった各種サービスの利用が可能になっています。年を取って虚弱になっても、住み慣れた地域で安心して暮らしていけるように、と願っております。地域のコミュニティケアを支える重要な施設となる予定です。

人が人をおもう。人が人をつつむ。



特集

P2 患者さま一人ひとりと向き合い、健康のお手伝いを
～全人的医療に取り組む
『統合医療センター』～

- P1 理事長ごあいさつ
- P2 特集 統合医療センター
- P5 みゆきのひとひと 渡辺先生
- P6 Dr.コラム
- P7 今後の行事予定／担当医表／ニュース

「みゆきの里総合相談支援センター& 御幸病院地域医療連携センター 開設」

みゆきの里ではこの4月、みゆきの里各施設の総合的な窓口としての機能を持たせた、「みゆきの里総合相談支援センター」を開設いたしました。みゆきの里各施設の役割・機能についての説明や、適切なサービスの提案・調整、地域の老人会やサロン活動への講師派遣等、みゆきの里とご利用者をつなぐ最前線の部署として活動する予定です。

また、御幸病院では地域の医療機関とのより一層密な連携のため、「御幸病院地域医療連携センター」も同時に開設。病病連携や病診連携に、これまで以上に力を入れていく予定ですので、よろしくお願いいたします。



みゆきの里総合相談支援センター
(介護老人保健施設 ぼたん園内)
Tel: 096-379-7887(担当: 川崎・宮本)

御幸病院地域医療連携センター
Tel: 096-378-1166(担当: 林田・山下)

写真前列左から
上野久美子(訪問看護ステーションみゆきの里所長兼地域医療連携センター)、
林田智恵美(地域医療連携センター室長)、
馬場憲一郎(御幸病院総院長兼地域医療センター長兼総合相談支援センター長)、
川崎悦子(総合相談支援センター室長)、

後列左から
前田淳(情報管理室兼地域医療連携センター)、
山下雄三(地域医療連携センター看護師)、
宮本秀美(総合相談支援センター相談員)

患者さま一人ひとりと向き合い、健康のお手伝いを

～全人的医療に取り組む『統合医療センター』～

統合医療の実践と研究の場として昨年発足した『統合医療センター』。
ここは、患者さま一人ひとりに寄り添う全人的な医療を目指した、新しい取り組みの場です。



話し手：統合医療センター

見えない不調の原因を 突き止め、改善する “統合医療”とは

西洋医学と、東洋医学をはじめとする代替医療を適切に組み合わせ、全人的な医療(=人を部分ではなく、全体で捉える医療)に取り組んでいる『統合医療センター』。その中心にいるのが、センター長であり当院の名誉院長でもある長尾医師です。

長尾 昨年から名称も新たに、また2人の専属スタッフを擁してスタートを切った『統合医療センター』ですが、そのベースとなるようなことは、10年以上

の間、私が個人的に続けてきたことなんです。医師が専門にこだわりすぎず、一人の患者さまを全体的に診る。心も体も余すことなく診ることができて初めて、痛みや不調の原因を見つけられることができると信じてきました。

—それは、現在主流となっている西洋医学の考え方とは異なるものですね。**長尾** 新しい治療法や画期的な検査方法が次々に開発され、西洋医学はものすごいスピードで進化を遂げていると思います。しかし、その専門性の高さゆえに、どんどん細分化してしまっているのも事実です。例えば、診断ひとつ取っても、本来ならば適切な治療方法を



御幸病院名誉院長・外科医師
長尾和治



医師
山浦真



御幸病院副看護部長
福原千秋



外来看護師長
竹井千里



外来鍼灸師・北3病棟看護師
大仁田宏司



外来鍼灸師
山内晶子



左／鍼治療
中／吸玉(すいだま)療法
右／吸玉(すいだま)療法の跡

決めるために診断をしていたはずが、現代の医療においては診断が治療方法に結びつかないことも多い。それでは、どんなに詳細なデータや分析結果が得られても本末転倒ですね。当センターにも「CTやMRIを取ったのに、悪いところが見つからなかった! どうにかしてほしい」と不調を訴えてこられる患者さまがいらっしゃいますが、それこそが医学の専門化・細分化が進みすぎた弊害だと思います。人体というものは不思議なもので、痛みや不快感のある部位＝必ずしも直接的な原因ではありません。例えば首が痛いという症状ひとつ取っても、内臓から来ている場合もあるし、骨盤に問題がある場合もある。そういった場合に力を発揮するのが、代替医療を取り入れた統合医療です。

人類の歴史と共に 発展してきた 代替医療のこれまで

—長い歴史を持つ代替医療。その意味合いや成り立ちを簡単に教えていただけますか?

長尾 “代替医療”という言葉自体が「西洋医学の代わり」という、補完的な

イメージを作ってしまった感じがしますね。しかし“代替医療”は英語で“alternative medicine”。オルタナティブとは“変革する”という意味でしょう。代替医療は、決して代替品という位置づけではないのです。また代替医療は、2000年近くの歴史を持っています。アーユルヴェーダや中国伝統医学といった古いものから、ホメオパシーやアロマセラピーといった最新のものまで、常に良いものは残り、悪いものは淘汰されて現代まで受け継がれているのです。

—現在『統合医療センター』では、中国の伝統療法である鍼灸治療をメインに行われているのですよね。

長尾 ツボ(経穴)を刺激し、経絡を通じて身体の中の「気」や「血」を調節する鍼灸治療をはじめ、何種類かの生薬を組み合わせて処方する漢方処方、身体を気持ちよく動かしながら歪みを改善していく操体法などを主に行っています。また当院全体で力を入れているアロマセラピーなど、新しい手法も積極的に取り入れています。ただし、代替医療の核心は、まずじっくりと患者さまに向き合うことから。症状や生活習慣に、その方の性質についてお話を伺い情報を

引き出すことによって、最適な診断法、ひいては治療法も見えてきます。ここには「先生がゆっくり話を聞いてくれるから」という理由で通ってくださる患者さまも少なくありません。

—統合医療センターでは、鍼灸・漢方以外にどんな診療を行っていますか?

山浦 当センターでは、私が点滴療法を担当しております。点滴療法は直接体内に投与するので、服薬などに比べ吸収率が良く、より高い効果や即効性があると考えられています。高濃度ビタミンC点滴療法、グルタチオン点滴療法、マイヤーズカクテル点滴療法などを実施していますが、それぞれ癌やパーキンソン病、慢性疲労やうつ病に効果が期待できると言われています。

—当院が代替医療を積極的に取り入れることになったのは何故でしょうか。

長尾 病院として、というよりは私個人の話になりますが、28歳の時に椎間板ヘルニアに悩まされ、知人に紹介してもらって鍼灸・指圧に出会ったのがキッカケです。そこから興味を持ち、少しずつ勉強するようになりました。数年後には日本鍼灸学が発足、当時は中国から取り寄せた

本を苦労して解説していましたが、現在は資料も豊富に揃い、代替医療が広く普及してきたことを実感しますね。

また、市民病院に勤務していた頃に、聖路加病院の日野原重明先生に声をかけていただき『看護のための最新医学講座 第33巻 alternative medicine』という書籍の編修に携わったことも大きかったと思います。こうして代替医療は私のライフワークとなり、当院でもコツコツと取り組んできたのです。近年では代替医療が見直され、患者さまや医療現場からのニーズが高まってきたこともあり、今回正式にセンターを発足させることになりました。

あらゆる人の健康を サポートする 『統合医療センター』 のこれから

大仁田 私たちが勤務する『統合医療センター』も、当院がモットーとして掲げる



▲操体法



“専門性の高いチーム医療”を強く意識しながら治療を行っています。先ほど長尾先生のお話にもありましたが「西洋医学の検査では何も以上が見つからないのに、不調を感じる」という状態、これは東洋医学の世界では“未病”と呼ばれています。この未病の段階で根本から不調を改善することによって、大きな病気や怪我から身を守ることができるんです。

山内 もちろん、当院が力を入れている運動器疾患の患者さまに対しても、統合医療でお手伝いできることは多いと思います。リハビリの際の痛みを軽減し、楽しみながら身体をほぐしていくことで、在宅復帰に向けて前向きに取り組んでいただけたら嬉しいです。

竹井 もう一つ、当院の特徴である緩和ケア病棟においても、統合医療は有効です。あん摩マッサージ・指圧師の山内は定期的に緩和ケア病棟でマッサージを行い、患者さまの苦痛を軽減するサポートに取り組んでいますし、院内全体で研修を行っているアロマセラピーも、終末

期の患者さまやご家族を支えるため、大切にしています。

福原 終末期においては患者さまご自身、そしてご家族も心と身体に大きな痛みを抱えていらっしゃいます。患者さまはもちろん、今後は介護疲れに苦しむご家族に向けて、アロマトリートメントを始められたらと考えているんです。統合医療においてももっとも大切なことは、日頃のセルフケア。多職種によるチーム医療の強みを生かし、ここを訪れるすべての方が健康でいられるよう、食養生の知識もお伝えしていきたいと思っています。“不通即通→通即不痛”(体内の循環を改善することが、すなわち健康につながる)という東洋医学のエッセンスを日常に取り入れていただき、たくさんの方の健康をサポートしていけたらと考えています。

渡辺 英夫

Hideo Watanabe

症例検討を通じて 見えてくるもの

～対話の中から生まれる成長の芽～

リハビリテーション医学の権威として知られ、また義肢・装具といった関連分野においても専門性の高い研究を重ねてこられた渡辺英夫先生。現在は、御幸病院 回復期リハビリテーション病棟の顧問として、お力添えをいただいています。

一回復期リハ病棟での指導について、詳しく教えてくださいいただけますか？

渡辺 こちらに伺うようになったのは、名誉院長である長尾和治先生のお声かけがきっかけでしたから、もう10年になりますね。現在は月に2度ほどお邪魔して、回復期の患者さまの症例検討を中心に活動しています。患者さまにも協力していただき、その方にとって適切なリハビリテーション医療が提供できているか、皆で検討するのです。具体的には、担当のPT(理学療法士)やOT(作業療法士)が準備した資料を確認し、実際に患者さまと対話を行います。そして両者の認識にギャップがないかどうか、また効果的な訓練が行われているかを討論するといった手順です。

を超えた意見交換をすることで、新しい視点や気づきを得ることができると考えているのです。そのためには、実習生からベテランまで、発言しやすい雰囲気を作ることが重要です。時には冗談を交えつつ、リラックスした場を作ることで、患者さまもデータとは異なる一面を見せてくださることがあるんです。

また、先ほどお話しした「効果的な訓練」というのは「自宅で病前と同程度の快適な生活を送れる状態」に近づけることを目的としています。下がってしまった筋力をどのように回復するのか？ 移動の動作に不便はないか？ 担当のPTやOTが壁にぶつかり、悩んでいる課題も、私のように外部から来た人間や、別の職種のスタッフが視点を交えて診ることによって、思わぬ解決法が見つかったりするものなんですよ。

先生の豊かな経験や深い知見が、スタッフたちの刺激となっているのですね。

渡辺 こちらは整形外科の常勤医師がいらっしゃるんです、その点で私の経験がお役に立てたら嬉しいですね。とはいえ回復期リハ病棟には、川野先生をはじめ、熊本のリハビリテーション界を代表するような医師陣がいらっしゃいますから、心強い限りです。また若いスタッフも、患者さまや症例検討会から日々学び、成長を遂げています。今後も、よりフィードバックを充実させ、バラエティに富んだ内容で研修を実施できるよう、試行錯誤を続けていきたいですね。

[profile] 渡辺 英夫 わたなべ ひでお

医学博士 社会保険大牟田天領病院 リハビリテーションセンター所長
御幸病院 顧問

昭和35年3月 熊本大学医学部を卒業
昭和42年9月 ニューヨーク大学リハビリテーション科へ留学
昭和54年4月 佐賀医科大学 教授
平成10年5月 佐賀医科大学 名誉教授
平成14年7月 現職に就任
平成15年7月 御幸病院 回復期リハビリテーション病棟 顧問

オープンな討論の形で、指導が行われているのですね。

渡辺 私には “リハビリは討論の中から進歩が生まれる” という持論があります。ざっくばらんな雰囲気の中、職種や立場



Dr.コラム “正確な診断力”で、患者様に合った選択肢を”

Dr.Column



かねみつ てつじ 院長 金光 徹二

初めまして、かねみつ胃腸科外科医院の金光徹二と申します。当院は西区新土河原、アクアドームや、熊本城マラソンの難所、西大橋近くにあります。胃腸科を中心に、地域のかかりつけ医を目指して平成9年に開業しました。

私は昭和58年、熊本大学第二外科に入局いたしました。現御幸病院総院長、馬場憲一郎先生は食道外科のグループ長で、入局後色々指導を受けました。

当院は開院当初から在宅医療にも少しですが、かかわってまいりました。まだ介護保険が始まって間もない頃で、往診と在宅医療の区別がつかない方もおられました。在宅で診させていただいた方でも、急変すれば救急車で救急病院に搬送され、CPRを受けたりされていきました。当時に比べると、在宅医療に対して一般の方々の理解が進み、また地域の包括支援センターや訪問看護ステーションの充実、デイサービス、グループホームなど在宅医療、在宅介護の体制は整ってきているように思えます。しかし、

どうしても患者さんの病状によっては、家族の介護力が足りないケースがあります。その時には在宅から病院、施設へ、リハビリを経てまた在宅へ、そして終末医療をどこで迎えるか？在宅？施設？いろいろな選択肢を選んでいただけるようにするためには、御幸病院のような多機能を持った病院、施設との連携が大切だと思っています。今後も御幸病院様との連携を保ち、地域の方々が不安なく過ごせるようにしていきたいと思っています。今後ともよろしくお願いたします。

かねみつ胃腸科外科医院

〒860-0056
熊本県熊本市西区新土河原2丁目3-4-3
Tel: 096-326-1500

サービス付き高齢者向け住宅 サンシティハウス開設！

御幸病院の母体である医療法人博光会は、平成26年4月に「サービス付き高齢者向け住宅 サンシティハウス」を、みゆきの里の近傍に開設いたしました。御幸病院訪問介護事業所も併設しており、御幸病院から徒歩2分。みゆきの里の各施設・事業所が万全のバックアップ体制で、入居者の皆様が安心して住み慣れた地域での生活を送ることができます。詳しい内容についてのお問い合わせは、みゆきの里総合相談支援センター(096-379-7887 担当:川崎・宮本)か、サンシティハウスへ直接お問い合わせください。



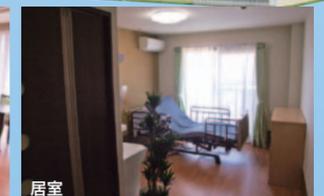
和室ラウンジ



交流ホール



食堂



居室

建物の外観はCGです。実際と異なる場合があります

人が人をおもう。人が人をつつむ。



みゆきの里

サンシティハウス

お問い合わせ先

住所：〒861-4172 熊本市南区御幸笛田3丁目17-10
お問い合わせ：田中・熊野・下田 他担当スタッフまで
電話・FAX：☎096-370-2200 Fax.096-370-2201
ホームページ：http://www.miyukinosato.or.jp/
メールアドレス：info@miyukinosato.or.jp